

環境活動レポート2016年度版

2016.05.01～2017.04.30

ver.1.0

発行日 2017年6月19日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆社員数 18名(就業役員を含む)
- ◆業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

◆事業所

- 本社 東京都港区麻布十番1-5-25
- 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- 小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

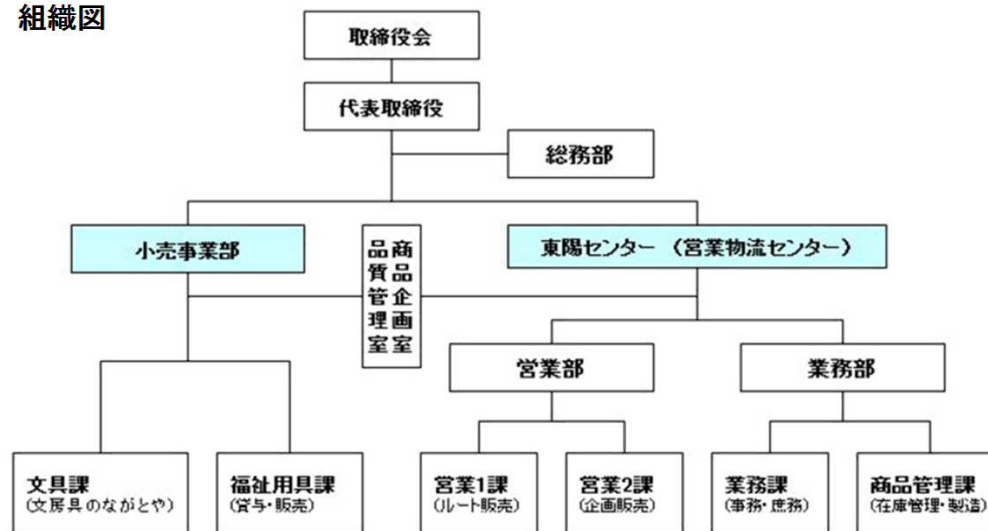
- ◆環境管理責任者 東陽センター長 中島 淳

◆事業規模

	2014年度	2015年度	2016年度
売上高(万円)	61,500	62,500	67,000

決算期末(6月)売上高

組織図



主力商品



プリンタ用紙



祝儀・和文具

環境方針

基本理念

当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

活動方針

- 1 環境にやさしい商品づくり
 - ・環境負荷の少ない新商品の開発を進めて参ります。
 - ・既存商品の製造工程を見直して、環境負荷を軽減します。
 - ・商品の包装や梱包資材などを簡略化し環境負荷を軽減します。
 - ・在庫管理を効率的に行い、入出庫に関わる物流エネルギーの削減に努めます。
 - ・商品の売上の一部を「森林保護活動」や「海洋保全活動」の為に役立てます。
- 2 省エネルギー
 - ・資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。
- 3 廃棄物削減と汚染防止
 - ・資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。
- 4 関連法規制順守
 - ・企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守致します。
- 5 グリーン購入
 - ・日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。
- 6 環境活動に関する継続的持続
 - ・環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。
- 7 環境活動の公表
 - ・環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめて公表致します。

2006年11月01日制定

2015年8月3日改定 (ver3.0)

株式会社 長門屋商店

代表取締役 横溝純一

環境目標および達成状況一覧

実施事項	2015年度実績	2016年度実績	2016年度環境目標	目標達成状況
①-A 電力消費量	47,404kWh	49,899kWh 前年対比 +5.3%	46,500kWh (対2015年度-1.9%)	目標対比 +7.3% ×
①-B ガソリン給油量	7,537リットル	6,657リットル 前年対比 -11.7%	7,300リットル (対2015年度-3.1%)	目標対比 -8.8% ○
①排出CO2削減	38,050 kg	37,102 kg 前年対比 -2.5%	37,500 kg (対2015年度-1.4%)	目標対比 -1.1% ○
② 水使用量	209m3	208m3 前年対比 -0.5%	207m3 (対2015年度-0.9%)	目標対比 +0.5% △
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	636.2kg	689.1kg 前年対比 +8.3%	630.0kg (対2015年度-0.9%)	目標対比 +9.4% ×
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3459.3kg	3757.0kg 前年対比 +8.6%	3300.0kg (対2015年度-4.6%)	目標対比 +13.8% ×
④ 環境対応商品売上高	26,401万円	27,575万円 前年対比 +4.4%	27,000万円 (対2015年度2.2%)	目標対比 +2.1% ○

※使用排出係数: 購入電力0.000505(t-CO₂/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO₂/l)

○は設定目標達成 △は設定目標に及ばずも前年実績より良化 ×は目標・前年実績ともクリアできず

①-A 電力消費量の削減

本社ビル	2014年度	2015年度	2016年度
購入電力量(1)	30,444kWh	30,586kWh	29,857kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	628kWh	563kWh	685kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	31,072kWh	31,149kWh	30,542kWh
前年比		100.25%	98.05%

東陽センター	2014年度	2015年度	2016年度
購入電力量(1)	10,398kWh	10,111kWh	13,007kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6,102kWh	6,144kWh	6,350kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	16,500kWh	16,255kWh	19,357kWh
前年比		98.52%	119.08%

全社合計	2014年度	2015年度	2016年度
購入電力量(1)	40,842kWh	40,697kWh	42,864kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6,730kWh	6,707kWh	7,035kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	47,572kWh	47,404kWh	49,899kWh
前年比		99.65%	105.26%



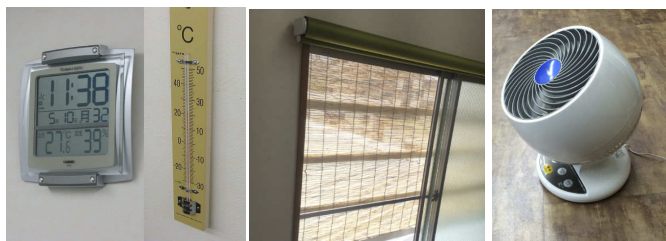
前年対比 **+5.3%**

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

①-A 電力消費量の削減



↑ LED電球およびLED蛍光灯



↑ 温度管理へのさまざまな工夫



←OAタップ
で待機電流
OFF

■評価・次年度へ

2016年度に導入した空調機器が明暗を分けました。
東陽センターの低圧電力の購入量は2015年度3,767kWh、2016年度6,418kWh、昨年対比170%

逆に小売事業部は2015年度3,215kWhに対し、2016年度は2,369kWh、昨年対比74%でした。
東陽センターには夏場の庫内対策のためにスポットエアコンを新規導入、小売事業部は故障による換装で最新エアコンを設置しました。
スポットエアコンの増加分をなんとか、換装した最新エアコンで相殺出来ないかと考えましたが、増加量が大きすぎました。必要設備導入によるものなので、2017年度からはこれを基準に目標設定致します。



本社 ソーラー設備 9.8kw



東陽センター ソーラー設備 10kw

■新規取組

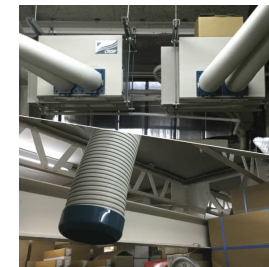
- ◆小売事業部の店舗内のエアコンを新しくしました。
- ◆東陽センターの照明の一部をLED化しました。

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF



2016/6換装 小売事業部エアコン



2016/6導入 スポットエアコン

①-B ガソリン給油量の削減



↑ダッシュボードに表示

	2014年度	2015年度	2016年度
給油量	8,417L	7,537L	6,657L
前年比		89.54%	88.32%

前年対比 -11.7%

【参考】全社燃費

(全車合計走行距離÷全社給油量)

	2014年度	2015年度	2016年度
全車両合計	11.47km/L	11.33km/L	12.47km/L
前年比		98.78%	110.06%

■新規取組

- 2016年10月に最新型ハイブリッド車1台導入(入替)
- 冬季の安全装備として、全車スタッドレスタイヤの着用を義務付けました。

■取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
(①アクセルワーク50%以下②アイドリングストップ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック)
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

2015年度までは車通勤の従業員がいたが、退職したので2016年度はその分が少なくなった。また今期は1台入れ替えがあり、こちらは最新のトヨタプリウスを導入した。社長の車輦で自らハイレベルなエコ運転を実践し、リッター約28kmと高燃費を実現している。しかしながらこれらアドバンテージを除くと、ほぼ前年通りであることも調べてわかった。日頃の積み重ねだけではここまでの変化は得られない。なお2017年度は配送体制を見直す予定があるので、大きな変化が生じると思われる。しかしながら削減方法や積み重ねの努力は引き続き追求してもらいたい。

①Co2排出量削減



CO2排出係数	使用数値
購入電力 (環境省HP/東京電力)	0.000505 t-CO2/kWh
ガソリン (EA21ガイドライン)	2.32166 kg-CO2/l

※購入電力の係数は2015年11月30日公表値の実排出係数を使用しました。

全社合計	2014年度	2015年度	2016年度
本社ビル 排出CO2	15,374kg	15,446kg	15,078kg
購入電力 購入量	30,444kWh	30,586kWh	29,857kWh
東陽センター 排出CO2	5,251kg	5,106kg	6,569kg
購入電力 購入量	10,398kWh	10,111kWh	13,007kWh
全社ガソリン 排出CO2	19,541kg	17,498kg	15,455kg
給油量 購入量	8,417L	7,537L	6,657L
排出CO2総量	40,167kg	38,050kg	37,102kg
前年比		94.73%	97.51%

【参考】

	2014年度	2015年度	2016年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	65.31 kg-CO2/万円	60.88 kg-CO2/万円	55.38 kg-CO2/万円
前年比		93.22%	90.96%

オフセット計算	2016年度
本社ビル 総発電量	10,088kWh
東陽センター 総発電量	11,569kWh
発電量合計	21,657kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量

⇒ **10,937kg 相当**

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 26,165kg

なお、昨年のオフセット後の排出量は 26,926kg でした。

② 水使用量削減



本社ビル	2014年度	2015年度	2016年度
上下水道	40m ³	42m ³	42m³
前年比		105.00%	100.00%

東陽センター	2014年度	2015年度	2016年度
上下水道	167m ³	167m ³	166m³
前年比		100.00%	99.40%

全社合計	2014年度	2015年度	2016年度
上下水道	207m ³	209m ³	208m³
前年比		100.97%	99.52%

■設備導入

特になし

■取組

雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。

■評価・次年度へ

ほぼ例年通りの消費量である。
社員数の増減などの影響もなかった。

新しい施策は難しいので、個々の意識を落とさぬよう引き続き継続していきたい。

前年対比 -0.5%

③ 廃棄物の排出量削減



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 東陽センターでは3種の分別ゴミ箱を用意しています。

可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）

熱回収/埋立	2014年度	2015年度	2016年度
本社ビル	118.1kg	147.0kg	208.7kg
東陽センター	543.6kg	489.2kg	480.4kg
合計	661.7kg	636.2kg	689.1kg
前年比		96.15%	108.31%

■新規取組

私的なゴミはできるだけ社内で捨てない。

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用 ● ダンボールの再利用 ● 古紙やプラの分類回収
- ペーパーレスの促進 ● ペットボトルとキャップの分別収集

プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2014年度	2015年度	2016年度
本社ビル	1850.0kg	533.0kg	1380.0kg
東陽センター	2759.3kg	2926.3kg	2377.0kg
合計	4609.3kg	3459.3kg	3757.0kg
前年比		75.05%	108.61%

■評価・次年度へ

本社ビル：店舗改装に伴う廃棄や保管場所が狭くなったことで本社は大きく増えてしまった。またまた仕入先が多様化したことでダンボールの排出量も増大していった。

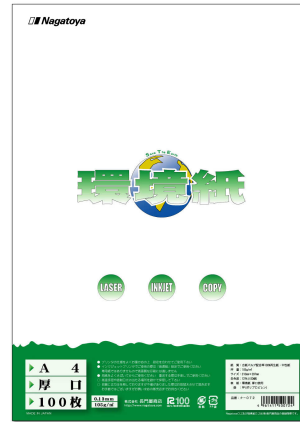
改装については一過性のものなのでやむを得ないと考えている。またダンボールについては仕入先と交渉して削減を試みたい。

東陽センター：ダンボールの再利用は非常に促進している。また得意先への直送を増やすことでゴミを発生させない努力も出来ている。ただ仕入先から届く荷物にはまだ過剰梱包が見受けられる。交渉してさらに削減を試みたい。

④ 環境対応商品の売上高アップ ※自社ブランド製品の卸販売高



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「環境紙」



売上の一部をWWFの南西諸島保全へ
寄付している「美彩紙」

■対象商品

- 売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- 原料に廃材や再生材を使用している。
- 非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

消費者のニーズが一時期ほど環境商品を重視しなくなっており、開発にも至りませんでした。全社売上高とほぼ同ポイントの増加となりました。
2017年度は環境対応商品発売の予定があります。
「環境ありき」の商品作りは難しいのですが、今一度既存品も見つめ直し、商品開発をいたします。

	2014年度	2015年度	2016年度
環境対応商品	26,042万円	26,401万円	27,575万円
前年比		101.38%	104.45%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 +4.4%

環境活動・啓発活動



オイスカ「子供の森」計画支援

「子供の森」計画は子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。

WWF「南西諸島プロジェクト」支援

WWFジャパンは、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島全体の生態系保全を目的とした「南西諸島プロジェクト」(南西諸島エコリージョン)に取り組んでいます。

これまでの「しらほサンゴ村」支援と同様、南西諸島の生物多様性の保全のために「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%は活動支援金として寄付致します。



特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク（通称：NANSEIちゃん）「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



その他

グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。

以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPGを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策(アイドリングストップ) 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業系一般廃棄物に関して 	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の責務・減量義務等 	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7条(事業者の責務)ほか 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自賠償・納税・走行ルール 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース会社・販売会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済みの事業系パソコンの排出 	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検 	○	遵守

2017年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

2017年度～2019年度の設定 中期環境目標

実施事項	2016年度実績	2017年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力消費量	49,899kWh	48,500kWh 前年対比 -2.8%	2018年度 47,500kWh (対2016年度-4.8%) 2019年度 46,500kWh (対2016年度-6.8%)
①-B ガソリン給油量	6,657リットル	6,300リットル 前年対比 -5.4%	2018年度 6,000リットル (対2016年度-9.8%) 2019年度 5,700リットル (対2016年度-14.3%)
①排出CO2削減 ※購入電力量+ガソリン給油量より(※)	37,102 kg	34,500 kg 前年対比 -7.0%	2018年度 33,000 kg (対2016年度-11%) 2019年度 31,500 kg (対2016年度-15%)
② 水使用量	208m3	207m3 前年対比 -0.5%	2018年度 206m3 (対2016年度-0.9%) 2019年度 205m3 (対2016年度-1.4%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	689.1kg	660.0kg 前年対比 -4.2%	2018年度 640.0kg (対2016年度-7.1%) 2019年度 620.0kg (対2016年度-10%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3757.0kg	3500.0kg 前年対比 -6.8%	2018年度 3400.0kg (対2016年度-9.5%) 2019年度 3300.0kg (対2016年度-12.1%)
④ 環境対応商品売上高	27,575万円	29,000万円 前年対比 +5.2%	2018年度 30,000万円 (対2016年度+8.7%) 2019年度 31,000万円 (対2016年度+12.4%)
⑤グリーン購入比率の拡大	消耗品類および新規OA機器導入時には、各カタログにおいて「グリーンマーク」の付いた商品を積極的に使用すること		
⑥従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※使用排出係数: 購入電力0.000505(t-CO₂/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO₂/l)

環境管理責任者の総評

■環境管理責任者の総評

お蔭様でEA21を10年続けてまいりました。
始めた当初、私は30代前半。社内でも若輩者だった私が環境管理責任者に指名されて沢山の経験をしました。

まずは数値の記録のお願いでした。生産性のない業務を増やすわけですから、面倒くさそうなりアクション。
とにかくお願いの陳情でした。
「ガソリン」を削減するには運転指導からですが、当時はまだ「エコ運転」という言葉も無かったと思います。
社用車はマニュアル車で、年配営業は当たり前のように「ブーーーーン」と吹かした急発進。
積みっぱなしはガソリンの無駄と言ってるのに、変える意識を感じられない営業マン。日々言っても聞く耳をもってくれません。
また本社ビルの認証も大変でした。会社、テナント、オーナーファミリー、全て同じゴミ置き場でスペースもなく分別困難。
またビルには電気メーターが多数。
私ひとりのチカラでは協力を得るのが難しく、社長の英断がなければ認証拡大はできませんでした。
また環境管理責任者として、本業の合間にレポートを書き上げたり、知識のない法律のことを調べたりと時間も苦勞もいたしました。

この10年は組織もだいぶ変化しましたが、環境マネジメントも大きく成長しました。

現在は役員からパートさんまで全社一丸となって取り組んでいます。
アスクール様から勧められたことがきっかけでしたが、本業にも生かされている部分や私自信が成長できた部分もあり
やってきて良かったなと感じております。
10年前に憂鬱そうだった私が見たら感激していると思います。
皆様の協力があってここまで続けてこれました。心より御礼を申し上げます。

2017年6月15日
中島淳



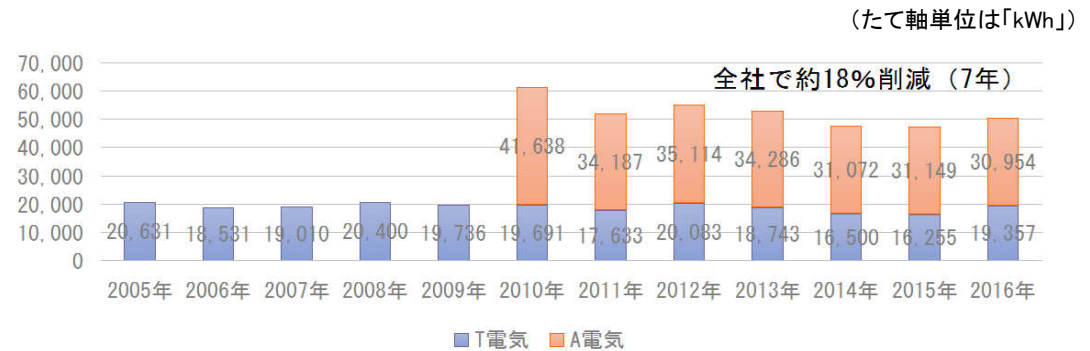
代表者の総括

1.総括

EA21環境経営に取り組み今期が早や10年目の更新となります。原点回帰の意味もあり、削減実施項目ごとに過去の実績値をグラフ化してコメントを加えることにします。

①電力消費量の削減

2010年より本社を加算し、全社で約18%を削減しました。ただし2016年度は東陽センター倉庫内にスポットエアコンを2基新設したため、電力消費量は増加に転じてしまいました。



②ガソリン給油量の削減

こちらも2010年より本社を加えています。全社で7年約40%を削減しました。12年前の実績との比較では約57%の削減となります。コストに置き換えると年110万円以上の経費削減に繋がっています。エコカー(HVやI-STOP車)などの導入効果が顕著です。



代表者の総括

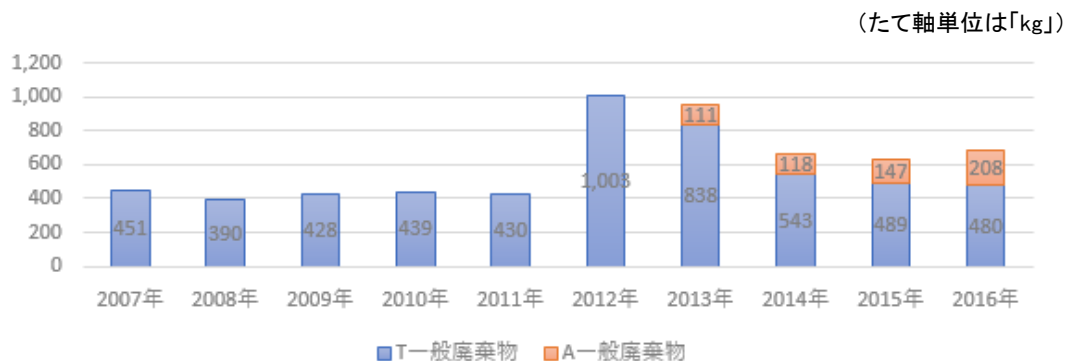
③水使用量の削減

目に見える減少は小さいように映りますが、7年間で約12%を削減しました。節水への意識が社内に浸透している表れと感じています。



④廃棄物排出量の削減

2012年度より実測集計方式に切り替え、翌年から麻布本社を加算して4年が経過しました。4年で約27%の削減です。今年度は期中に小売店舗のニューアルを行った為、一時的に一般廃棄物量が増加し、昨対では約108%の結果となりましたが、東陽センターでは着実に減少傾向となっています。



2.次年度の見直しや改善指示

「環境方針」「環境活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。
 今年度目標未達成となってしまった「電力消費量の削減」、「廃棄物排出量の削減」について、次年度は特にチカラを注いで目標達成を図りたいと考えております。
 「電力消費量の削減」については、担当者とともに全社的な節電意識の徹底を仕掛けながら、毎月の使用量チェックを指示いたします。また「廃棄物排出量の削減」についても、更なる細分を検討するよう担当者に指示いたします。



2017年6月19日
 代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者:業務統括 執行役員 中島淳
〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3
TEL 03-5690-7131
FAX 03-5690-8010
nakajima@nagatoya.com